

第2期「高知のこどもをどう育てるかを考える会」

―「研修プログラム検討部会」報告書―



平成16年2月
研修プログラム検討部会

はじめに

社会の変化に伴い、保育所や幼稚園に対するニーズや価値観が多様化する中で、就学前の保育や教育の重要性が近年再認識されてきました。さらに、少子化の進行・家庭や地域のニーズの多様化等に伴い、これからの保育士や幼稚園教諭には、保育の専門家としての資質・指導力が求められているのはもちろんのこと、家庭・地域の連携を積極的にすすめ、子育て支援者としての役割が求められています。

しかしながら何よりも、保育の中心的な役割を担う保育者には、自分自身の資質・指導力の向上を意識し、保育と教育に必要な基本的知識や技能を高め、専門性を高める意識を持ち、研修で学んだことを日々の保育活動に生かしていく必要があります。

現在、子どもたちを取り巻く状況は厳しいといわれています。今こそ、わたしたちは、子どもを中心に据え、保育所や幼稚園のそれぞれの機能・目的を生かし、家庭・地域と一体となった就学前の保育と教育を展開していかなければならないと考えます。

わたしたちは、これらの視点に基づき、就学前の保育と教育は、「生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期を担う」という認識のもと、子ども一人一人が現在をよりよく生き、望ましい未来を創り出す生きる力の基礎を培う」ことを目的に、保育者の資質・指導力はどうあるべきか、また、その研修のあり方について1年間にわたり検討を重ねてきました。その結果を、ここに報告書として提出いたします。

平成16年2月

も く じ

求められる保育者の役割	1
1．子どもたちの育ちを援助する力を身につける	
2．保育者自身が豊かな人間性を身につける	
3．モデルとしての保育者	
効果的な研修の展開	3
1．専門性を高める研修	
2．自己課題を解決・達成する研修	
3．ライフステージに応じた研修	
4．カウンセリングマインドを高める研修	
5．保・幼・小・中連携を促進する研修	
6．子育て支援者としての役割に関する研修	
7．評価についての研修	
研修計画	5
1．研修計画の立案	
2．自主的な研修のための環境整備	
3．多様なニーズに対応した研修計画	
4．研修成果の共有と活用	
研修への支援	6
1．行政担当者の意識の構築	
2．研修会開催の創意工夫	
研修体系	7
「研修プログラム検討部会」開催日程	8

求められる保育者の役割

私たちは、就学前の保育と教育が、生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期を担うという認識のもと、高知の子どもたち一人一人が現在をよりよく生き、望ましい未来を創り出す生きる力の基礎を培うことができるために、今後保育者に求められる資質・指導力として、次の3つの視点を、今後の研修体系の中に位置付けることが必要であると考えます。

保育士及び幼稚園教諭に求められる資質・指導力に関する事項として、保育所保育指針及び幼稚園教育要領解説において次のように記述されています。

保育所保育指針

「保育においては、保育士の言動が子どもに大きな影響を与える。したがって、保育士は常に研修などを通して、自ら、人間性と専門性の向上に努める必要がある。また、倫理観に裏付けられた知性と技術を備え、豊かな感性と愛情を持って、一人一人の子どもに関わらなければならない。」【保育所保育指針 「第1章総則(2)保育の方法」】

幼稚園教育要領解説

「教師の役割を果たすためには、幼稚園教育の専門家としての専門性を磨くことは当然である。その専門性とは、幼稚園教育の内容を理解し、これらの役割を教師自らが責任をもって日々主体的に果たすことである。つまり、幼児一人一人の行動と内面を理解し、心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助することにある。そのためには専門家としての自覚と資質の向上に教師が務めることが求められる。」【幼稚園教育要領解説「第1章 総説 第1節 幼稚園教育の基本 4 教師の役割」】

1. 子どもたちの育ちを援助する力を身につける

保育者の意図を優先し、子どもたちに対して一方的に保育者自身の考えを押し付けたり働きかけたりするのではなく、保育の中心は子どもが主体であるという認識のもと、子どもの思い(心に寄り添うこと)を読み取る(感じ取る)ことが大切です。援助の方法は、子ども一人一人の状態や状況によって違います。常にその時々保育者は、子ども自身が自ら自分の課題を乗り越えていくことができるよう援助を行うことが必要だと考えます。

2 . 保育者自身が豊かな人間性を身につける

子どもの理解や受容は決して一方的なものではなく、保育者の心と子どもの心の相互的な営みであると考えます。子どもの気持ちを受け止めようと、保育者が一人の人間として子どもと関わる時、子どもたちはそれを感じ取り、心を開き自分らしさを表現します。この関係こそが互いの信頼関係を生み出す基盤となると考えます。

3 . モデルとしての保育者

保育者が自覚しなければならないことは、自分のもつ文化や価値観の枠組みを保育の場において意図的又は無意識のうちに、子どもに示しているということです。そのとき、常に保育者はこの枠組や価値観を絶対視することなく、いつも柔軟な姿勢で見直し続ける必要があると考えます。子どもに自分の価値観を押しつけるのではなく、子ども自身が主体的にそれを取り入れたり、乗り越えていくことができるようにすることが大切だと考えます。

効果的な研修の展開

1. 専門性を高める研修

就学前の保育や教育に必要な基本的知識及び実践力の向上につながる研修と、多様なニーズに対応するための研修が必要であると考えます。その際、大切にしたいのは、就学前の保育と教育が、子どもと保育者との相互的な営みである以上、理論と実践の合致した保育と教育が展開される研修体系が必要であると考えます。

2. 自己課題を解決・達成する研修

保育者は自主的に資質・指導力の向上に取り組むことが重要であり、自主的に行う研修は、保育者が主体的に取り組むものであることから、その効果も高まると考えます。また、日常の活動や地域との交流活動など、あらゆる機会を通じて、保育者として資質・指導力を向上をさせていく姿勢と取り組みが重要であると考えます。

さらに保育者は、一人一人の子どもの持つ課題に対して、どのように援助を行うのか。また、多様化するニーズ等に応じるために、常に自己課題解決に向けた研修を自ら組み立て、研鑽する必要があると考えます。

3. ライフステージに応じた研修

保育者が、それぞれの年齢や経験に応じて、修得すべき知識や技術、学びたい研修内容、抱える課題は異なります。年齢や経験に応じた園内での立場や役割を認識し、職務を遂行するために、中・長期的な見通しをもって保育者の資質・指導力の向上を図ることが重要であると考えます。

4. カウンセリングマインドを高める研修

保育者が、子どもを取り巻く環境に大きな変化が見られる現在、かつては見られなかった子どもの行動の変化や、現在の保護者世代特有の価値観の違いからくる対応の難しさなどがあげられます。地域の実態や、個々の園の実情にあわせ、日ごろから子どもや保護者が安心した園生活を送ることができるための援助と共に、子ども一人一人の内面を理解し、心の動きに応じた適切な援助が大切であると考えます。

また、保育者自身が、保護者や子ども一人一人の声に傾聴し、受容し、相互の信頼関係の確立を基本として、相談者の自立を援助するためのカウンセリングマインドを身に付けることが必要であると考えます。

5. 保・幼・小・中の連携を促進する研修

就学前の保育と教育で全てが完成するものではありません。生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期である乳幼児期から、児童期への円滑な移行のためには、一貫した流れを形成することが大切です。そのためには、それぞれの地域の実情や子どもたちの実態に応じ、子どもたちを中心に据えた実践が必要であると考えます。

6. 子育て支援者としての役割に関する研修

今日、社会・地域から求められている保育所や幼稚園の機能と役割は、子育て支援等をはじめ一層広がっています。今後、開かれた保育所や幼稚園に向けた取り組みを推進する中で、子育ての知識、経験、技術を蓄積している保育者が、地域における子育て支援の役割を積極的に担うことが求められていると考えます。

7. 評価についての研修

よりよい保育と教育を展開していくためには、保育者自身の保育内容及び組織としての内容の見直しと改善が必要であると考えます。評価には、日々の活動を通して行われる自己評価・職員による相互評価、公開保育を通しての他者評価、外部の人々による第三者評価等多様な評価方法が考えられます。

さらには、保育所や幼稚園を地域に開き、地域と共に課題を共有し連携することにより、質の高い保育と教育を展開することができる評価のあり方について検討する必要があると考えます。

研 修 計 画

研修には、通常の保育の場を離れて行政等が実施する研修と、自園や他園で行われる研究保育をもとに行う研修があります。これら研修を進めるに当たっては、研修の目的や位置付けを明確にし、それぞれの機能を組み合わせることにより、効果的な研修の展開を図る必要があると考えます。

1．研修計画の立案

保育所や幼稚園においては、それぞれの地域の実態、保育者等の課題を考慮し、「研修の必要性」「保育者の課題意識」「自己研鑽への動機付け」「園全体への波及」等を、視野に入れた系統的な研修計画が必要であると考えます。

2．自主的な研修のための環境整備

質の高い保育と教育を展開していくためには、義務的な研修だけでなく、保育者自身が自ら学ぶ姿勢を持つことが大切です。地域の行事や各種研修会等に参加し、資質・指導力の向上に努めることが必要です。このことを可能にするためには、研修体制の確立が必要であると同時に、保育所や幼稚園・行政等の支援が必要であると考えます。

3．多様なニーズに対応した研修計画

保育者に求められる専門性は、保育ニーズの多様化に伴い多岐にわたっています。保育者が、身に付けていくべき知識や技術を、総合的・効果的に習得するためには、通常の保育の場を離れて実施される研修や、自園や他園で行われる研究保育と園内研修等を組み合わせた一体的な研修計画が必要であると考えます。

4．研修成果の共有と活用

園外研修において、保育者が得た研修成果や情報を園内において共有する体制を整えることにより、質の高い保育と教育を展開できると考えます。

研修への支援

保育者が園内外の研修等に計画的に参加し、研鑽を重ねると共に、その成果を互いが共有することにより、質の高い保育と教育が展開できると考えます。しかし、日常の保育や実践に追われたり、人員の配置等の関係で意欲はあっても研修会に参加することができにくいという現状があると考えます。

これらの課題を解決するためには、県や市町村が支援を行っていく必要があると考えます。

1. 行政担当者の意識の構築

行政担当者は、常に「就学前の保育と教育は、子どもたちの成長にとって生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な時期を担い、高知の子どもたち一人一人が現在をよりよく生き望ましい未来を創り出す生きる力の基礎を培う」という認識のもと、財政的な支援を含め保育者の資質・指導力の向上を図ることができる研修体制への支援が必要であると考えます。

2. 研修会開催の創意工夫

現状として、日常の保育や実践に追われたり、人員の配置等の関係で意欲はあっても研修会に参加できにくいという状況を踏まえ、研修会の開催に当たっては、西部・中部・東部というように会場を分散して実施する工夫等が必要です。また、市町村独自や近隣市町村合同で実施する研究保育や研修会等の開催などの創意工夫が必要であると考えます。

さらに、各種研修会等の情報が共有できるシステムの環境整備も必要だと考えます。

研 修 体 系

		基 礎	充 実	発 展	深 化	
基 本 研 修	経 験 に 応 じ た 研 修	新規採用保育者研修	五年次研修	十年次研修	十五年次研修	新任用園長・所長等研修 園長・所長等研修
	主 な 内 容	研究保育及び保育カンファレンスを中心とした研修体制の再構築				
	専 門 研 修	<ul style="list-style-type: none"> 保育ニーズや課題に沿った専門講座の開催 				
	市 町 村	<ul style="list-style-type: none"> 新任市町村事務担当者研修会 市町村事務担当者研修会 市町村独自の研修会及び近隣市町村で合同開催する研修会 				
	連 携	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携に関する実践的研修会 				
	園 内	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修 				
	自 己 研 修	<ul style="list-style-type: none"> 保育、研究団体が実施する研修 保育者個人が実施する研修 				

平成15年度 第2期「高知のこどもをどう育てるかを考える会」
「研修プログラム検討部会」開会日程

1. 第2期「高知のこどもをどう育てるかを考える会」全体会及び第1回部会

日時：平成15年7月18日（金）13：30～17：00

場所：高知城ホール

内容：役員選出と今後の検討の方向性について

2. 第2回

日時：平成15年8月29日（金）13：30～16：30

場所：高知県教育センター

内容：体系的な研修体制のあり方について

3. 第3回

日時：平成15年10月14日（火）13：30～16：30

場所：高知県教育センター

内容：アドバイザーを迎えての体系的な研修体制づくりについて

4. 第4回

日時：平成15年11月28日（金）13：30～16：30

場所：高知県教育センター

内容：園外における研修体系について

5. 第5回

日時：平成16年1月23日（金）13：30～16：30

場所：高知県教育センター

内容：報告書案についての検討

6. 「高知のこどもをどう育てるかを考える会」全体会

日時：平成16年2月18日（金）13：30～16：00

場所：高知共済会館

内容：各専門部会別報告

「研修プログラム検討部会」委員

部会長	山下文子	(横浜新町保育園長)
副部会長	奴田原敏之	(杉の子幼稚園長)
委員	中山富子	(葉山村立葉山保育園長)
委員	中山富江	(土佐山村立土佐山幼稚園副園長)

参考文献

- ・ 『保育所保育指針』(厚生省 平成11年)
- ・ 『幼稚園教育要領』(文部省 平成10年)
- ・ 『幼稚園教育要領解説』(文部省 平成11年)
- ・ 『保育の実践と研究 Vol7・4』(スペース新社保育研究室 平成15年)
- ・ 『乳幼児保育の探求』(入江礼子編著 スペース新社保育研究室 平成14年)
- ・ 『保育原理の探求』(大場幸夫編著 スペース新社保育研究室 平成13年)
- ・ 『初等教育資料10月号』(文部科学省教育課程課・幼児教育課編集 平成15年)